

## 【 論点 1-2 】

### ギャンブル依存症者に対する支援の状況

- ギャンブル依存症については、その治療方法として、アルコールや薬物依存同様、医療機関に受診し、回復を図るイメージがある。
- しかし、支援センターにおいては、相談者に対し医療費の助成を行っているにもかかわらず、受診を希望する（実際に受診に至る）ケースは少数である。（相談者が希望するリファー先は病院だけではない）

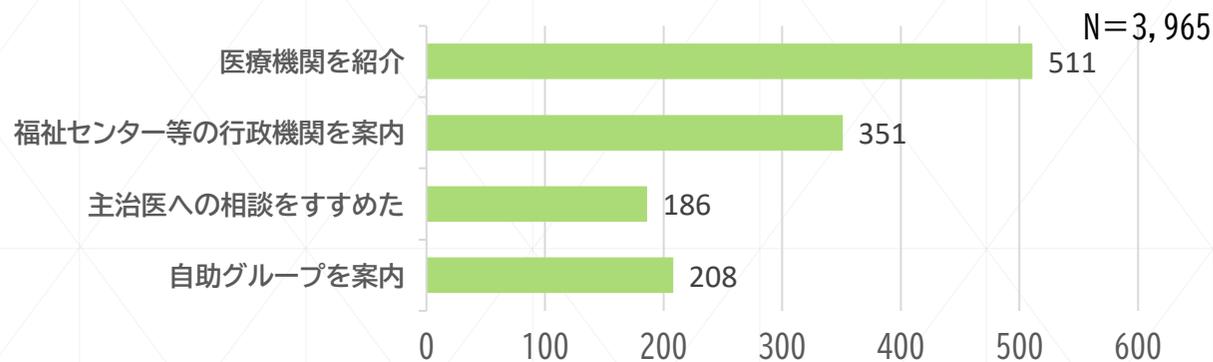
## 【 論点 1-2 】

# ギャンブル依存症者に対する支援の状況

- ギャンブル依存症については、その治療方法として、アルコールや薬物依存同様、医療機関に受診し、回復を図るイメージがある。
- しかし、支援センターにおいては、相談者に対し医療費の助成を行っているにもかかわらず、受診を希望する（実際に受診に至る）ケースは少数である。（相談者が希望するリファー先は病院だけではない）

2020年度

【サポートコールでの 医療機関等への案内数 内訳（件）】



|          | 2020 年度 | %      |
|----------|---------|--------|
| 相談件数     | 3,965   | -      |
| 医療機関 紹介数 | 511     | 12.8 % |
| 初診料申請数   | 16      | 0.4 %  |

支援センターでは、サポートコールへの相談後1ヶ月後、ショートメール（SMS）を利用したアンケートを実施。質問内容は、相談前及びアンケート回答時の1週間前における、参加日数、費用、参加衝動、参加しない自信等について。アンケート結果を分析したところ、早期発見・早期介入により、簡易的な相談（サポートコールへの相談）によって状況が好転するケースが多く確認できた。

SMSアンケートの解答から、ギャンブルに行った日数・使用した費用・ギャンブルをしたい衝動・ギャンブルを参加しない自信の【ヒストグラム・Histogram】を作成。ヒストグラムについては、次ページを参照。

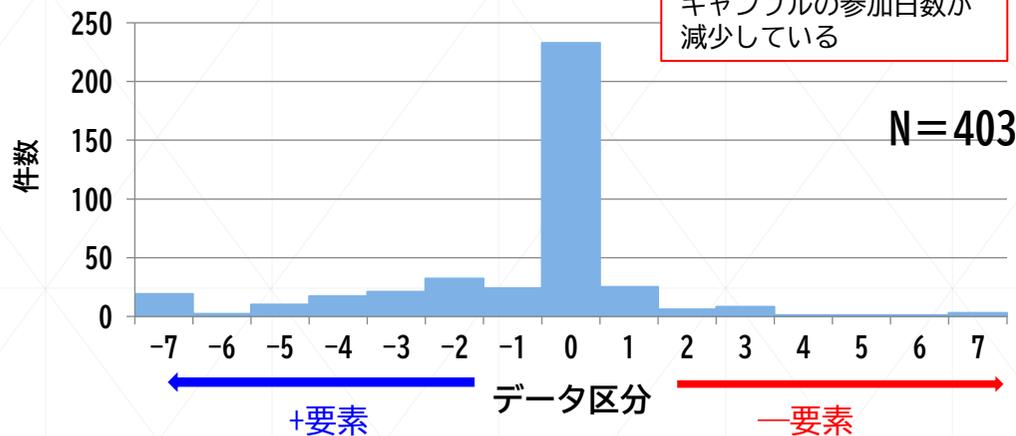
# - Histogram -

下記の4グラフは、相談前後の差異の分布を表したものです。相談前後で変化が見られなかった「0」を中心として作成している。

(例) 日数グラフで相談前に6日、相談後に3日ギャンブルに行った場合、差異は「3」となります。

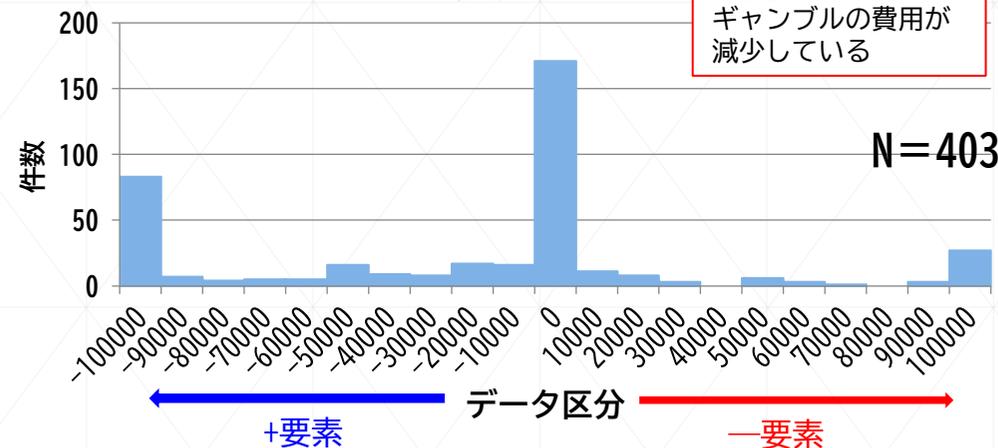
## 日数

相談前と相談後では、ギャンブルの参加日数が減少している



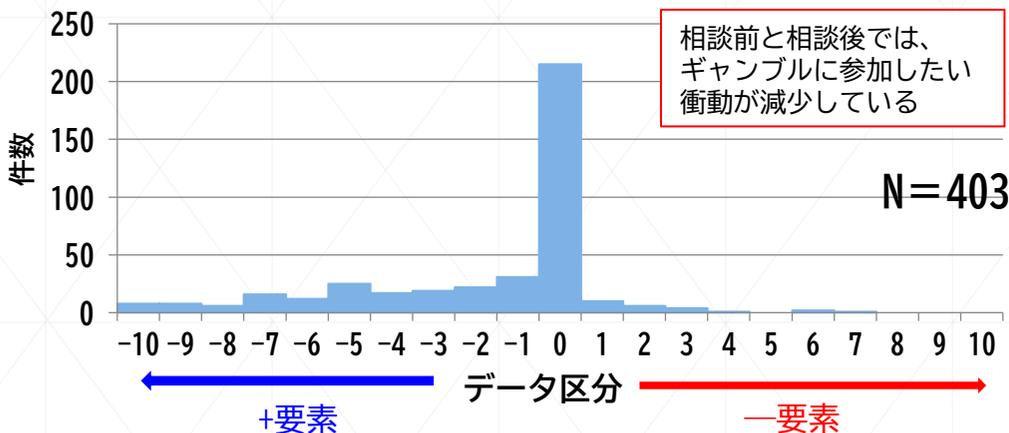
## 費用

相談前と相談後では、ギャンブルの費用が減少している



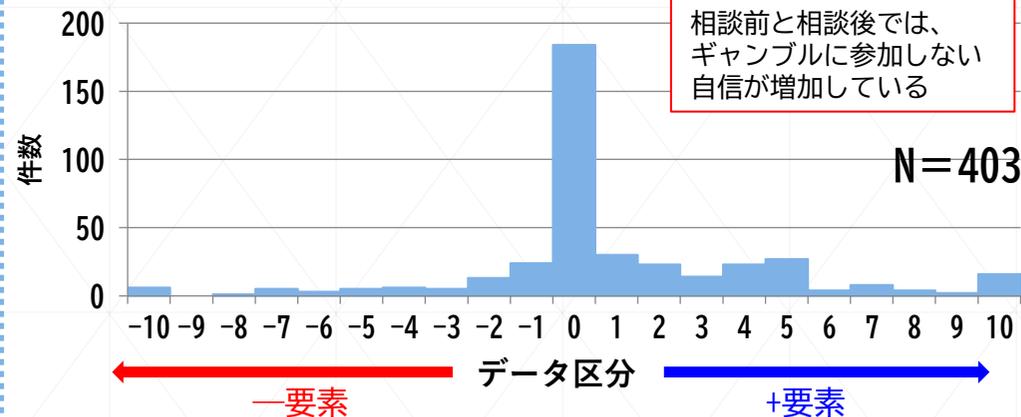
## 参加衝動

相談前と相談後では、ギャンブルに参加したい衝動が減少している



## 参加しない自信

相談前と相談後では、ギャンブルに参加しない自信が増加している



アンケートを行った結果、変化なしを表す「0」が大多数を占めているものの、悪化したというのは僅かだった。それに比べ 回復傾向となった件数も多く、サポートコールといった簡易的な介入でも効果が表れる結果となった。